

同窓会報



北陵

会報 第32号

● 発行者 ●
栃木県立真岡北陵
高等学校 同窓会
● 編集 ●
同上 編集委員会
● 印刷所 ●
(株) 杉山印刷

一〇〇周年記念式典を終って



同窓会長
小坂 利雄

本校一〇〇周年記念式典が無事終了致しました。同窓生各位の心温まる、ご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。今回の記念事業として玄関前に「光あふれて」と題する「ブロンズ像」を設置致しました。未永く本校のシンボルとして又、在校生諸君の希望の光となり心豊かな人間形成の一助になればと希っています。

本校一〇〇周年記念式典を育む崇高な教えであると思っております。報徳訓を根幹とした精神教育は他に追随を許さない質実剛健の校風を生み出し伝統として光り輝いています。この真農魂は大野原開拓の原動力となり、またたく間にあの広大な農場を切り開きました。当時全校生徒僅か一五〇名の青年の一蹴、一蹴の勤労の汗が農場の隅々にまで沁みこんでいます。

長い一〇〇年の歴史の中で真岡小学校の一隅から開校し熊倉町の八幡丘、大野原と学び舎の移転など様々な変遷を経ながら多くの青年が、農業・商業・福祉の学問に、そしてスポーツに青春の情熱を燃やし、時代の変化にも柔軟に対応し逞しくも果敢に真農魂を継承され、幾多の成果を収めて今日に至っています。この事は伝統を築きつ、校長先生を始め教職員の方々の可能性に挑戦する、たゆまぬ努力と生徒諸君の勤勉にあつた事は論を俟たないところであります。今、ここに一〇〇周年を迎えて、たくましくも美しい大輪の華を咲かせました。快なる哉と、快哉を叫びつつ北陵高校の栄光を讃え、永遠の発展を祈念して稿を終ります。



100周年記念モニュメント「光あふれて」

100年の歴史でつくる新時代



常に広がれ北陵の息吹

会員の皆さまにおかれましては、日頃より本校教育に多大なご協力を賜り、心より感謝申し上げます。おかげさまで、創立一〇〇周年に関する諸事業を滞りなく執り行うことができ、生徒・教職員一同喜びにたえないところです。母校の発展のため、浄財をお寄せくださった方々、そして記念事業実行委員として労を惜しまず準備にあたられた方々等々、この記念事業全体がまさに同窓生一万六千有余名の総力によって成し遂げられたといっても過言ではありません。改めて卒業生諸氏の母校愛に敬意を表し、学校代表として御礼申し上げます。



学校長
大金 武夫

この一年、一〇〇周年を機に学校を盛り上げようとして、多くの生徒達が活躍してくれました。部活動では、ライフル射撃部では六月の関東大会優勝を皮切りに、インターハイ、国体などで例年にも増す活躍が見られました。また、国体で団体優勝に輝いた山岳部の生徒もいます。そのほか、陸上八〇〇メートル走関東大会出場、サッカー選手権大会二次予選進出、卓球上位入賞など、さまざまな運動部の活躍がみられた一方で、吹奏楽部が県アンサンブルコンテストで銀賞に入賞するなど、多くの文化部でも活躍がみられています。



私たち教職員は、こうした生徒の活躍に呼応し、皆様方の母校がますます飛躍・発展するよう本校教育の充実を図って参りたいと考えております。そのために私は次の二つを大きな枠組みと考えています。

一つは専門高校の特色をさらに生かし、激変する産業界の中核となるような人材を育成することです。今、日本の産業界は大きなターニングポイントにさしかかっています。新しい発想で我が国の産業を再び世界に冠たるものとするのは若者です。二つ目は心を育てる教育をさらに充実させることです。人心の荒廃が危惧されているにもかかわらず、改善の兆しはありません。心を広くみ人を育てることが学校の第一義的役割との認識、確固たる教育的信念が学校に求められています。創立以来連綿と受け継いできた「報徳の教え」に今日の光をあて、本校人格教育の柱にしっかりと据えて参りたいと考えています。

一〇〇周年の年を後に、私たちは新たな北陵高校づくりに向け、第一歩を踏み出しました。「一〇〇年の歴史でつくる新時代、常に広がれ北陵の息吹」残されたこのスローガンを座右に、教職員一同力をあわせて参りたいと考えています。会員の皆さまには、変らぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

創立百周年、記念事業の紹介

①記念北陵祭



平成19年11月3日 本校

②記念講演(相田みつを)



平成19年11月1日 市民会館

③記念祝賀会



平成19年11月1日 グランドホテル静風

⑥征服改訂



男女共デザイン一新 新たなる出発

⑤同窓会館整備



展示ケース等の整備

④記念音楽鑑賞会



平成19年5月25日(市民会館) 東京室内管弦楽団

⑨北陵百年誌発刊

⑦記念造園(モニュメント)表紙写真

⑩北陵高同窓会名簿発刊

⑧100周年記念育英基金の創設

同窓会の皆さまには、日頃より母校の発展のため何かとご協力を賜り、誠にありがとうございます。今年には特に、創立一〇〇周年記念という大きな節目の年でした。同窓会の小坂会長をはじめとする実行委員会の皆さま、関係各位の皆さまのご努力のおかげをもちまして、素晴らしい記念行事となったことは言うまでもありません。

一〇〇周年記念事業の足跡も数々刻まれました。①百周年記念芸術鑑賞②記念式典③記念講演会④記念学校祭⑤モニュメント製作⑥記念育英奨学金制度⑦同窓会館整備⑧記念誌・会員名簿発行⑨記念会報の発行⑩新制服改訂⑪スローガン作成 等々特に、彫刻家の栗原先生の製作された乙女の像は「光あふれて」をテーマに生徒たちの健やかな成長を祈念したものです。十一月一日に行われたメインイベントの記念式典は、多くの来賓の方々を迎え厳粛な雰囲気の中、たくさんのご祝辞をいただき、改めて百年の重みを感じた次第です。式典のあとの、相田みつを美術館の相田一人館長の講演は心に残る素晴らしいものになりました。

最後に、一〇〇周年という歴史の舞台に、親子ともども関わることができた幸運に感謝申し上げますとともに、真岡北陵高校と同窓会の皆さまの、益々のご発展を祈念申し上げます。

この本に出会う前は、梨十アールの収量を、いかに増すか、いかに収益をあげるか、に、こだわっていました。収量は増しても収入は比例して伸びなかった。中嶋先生の「さとう」ことばから、経営の内容をひとつ、一つ検討していく中、選果精算伝票に目が止まり各品種毎、等級、階級の発生、一個当りの単価を並べて見ると、市場が高値の時も、安値の時も単価にあまり変動のない階級がある事に目が止まった。「大王」である。「収量より収入を安定させる計画を」。「十アールの目標売上げを設定する」。仮に一個当り売上げ百円の梨、とすると「十アール何個着ければ目標金額になる」。玉数を制限することにより、収穫期労力の省力化、適期収穫ができ、品質の高い梨に結びつき経営が安定してきた。土壌を「健康」にする土づくり。と生産者自身が「心身共に」健康であれば「食の安心、安全」に結びついた農産物が得られ、地球全体の健康になるものと考えます。

最後になりましたが、同窓会より祝賀会、記念品とお祝をさせていただきまして誠にありがとうございました。

一〇〇周年記念行事を終えて



PTA会長
渡辺 博史

しいものになりました。相田みつをの生い立ちをご紹介します。

一九二四年五月二十日、相田光男は、刺繍職人の父・喜平と、気性の激しい母・エイの三男として生まれました。成人後、地元的生活協同組合で働いていたが、ある日、資金の使い込みを発見。正義感の強い光男は、世渡りのうまい同僚・麻生忠夫が止めるのも聞かずに上司に訴え出るが、その夜、数人の男たちにひどい暴行を受ける。この一件で人間不信におちいった光男は、それから四年間、自分を溺愛する母・エイの庇護のもと、自宅での療養生活を送ることとなる。二十七歳の春、千江と結婚した光男。だが、書は売れず、光男は貧しい日々の中で、わかりやすい言葉による、独自の書確立していく。

こうして、あの独特な書体の作品が生まれていきました。皆様も機会がありましたら、作品にふれてみてください。

最後に、一〇〇周年という歴史の舞台に、親子ともども関わることができた幸運に感謝申し上げますとともに、真岡北陵高校と同窓会の皆さまの、益々のご発展を祈念申し上げます。

ふりかえって



昭和三十七年度卒
吉 永 進

十五年間の農業士活動から退くことができ、ホッとした感があります。又、地域農業の振興に寄与できたか疑問です。難しくなってきた「食の安心、安全」を考えていた中で農業科学研究所・理学博士「中嶋常允」先生の「土に、いのち」がある」という著書に感銘を受け、意識の改革になりました。

著書の抜粋ですが「一個のトマトは、トマトの種子の遺伝子が太陽の光、エネルギーを受けて、水と空気を吸収しながら、細胞分裂を開始し始め、根や芽を出し、葉や茎を成長させて、やがて開花し結実していくものです」。中略「生産者は、トマトの樹、すなわち生命が育つための環境と栄養を最高に適切な条件を整えてやるのが仕事です。また、トマトの生命が見えて、トマトの樹が今、何を求めているのか、その気持が分かるようになる事が大切です。昔の人は「樹を育てれば、実が得られるもの」を。実を求めて樹を枯らす。取ろう獲ろうは取られの素」と言っていました。と結んでいます。

同窓会のご発展と、母校の益々のご隆盛をご祈念申し上げます。



栃木県農業士となつて

昭和四十六年度卒

渡 辺 重 雄

昨年平成十九年一月一日、県公館に於いて福田富一栃木県知事より農業士の認定証書を妻と二人で頂きました。

県公館に入るのは、平成六年二月二十四日に栃木県農業経営コンクール大会（特用作物部門、煙草耕作）優秀賞を元、渡辺知事から妻と一緒に頂き二度目でありました。

農業者となり三〇余年、今回、県農業士として認定を受けましたこと大変



私の農業経営と近況

平成六年度卒

小 川 幹 夫

私は、平成六年に本校農業経営科を卒業し、その後、栃木県農業大学校農業科に進学しました。大学卒業後、すぐに就農、父も会社を退職し、一緒にトマト栽培を始めました。

最初は、コストを下げず、ウォーターカーテン式のパイプハウス、二十三アールを、自分達で建てました。その後も補助事業などを使い規模の拡大を図り、平成十四年には、風速五十メートルに耐えられる低コスト耐候性ハウスを導入し、現在土耕三十六アール、ロックウール四十九アールの計八十五アールを、作付けしています。

私の家の特長としては、労働時間内に、少ない人

落の形成、担い手、就農後継者の育成等、具体的対策実施が望まれるところであります。

幸い葉たばこ耕作者の仲間作り、ネットワークは旧来より非常に密な組織になっており、情報交換、技術共有、研修活動



等、実施は安易にできるところであり、今後もより一層充実を図って参りたいと考えております。

併せて今、自治意識の必要性が問われており、行政にばかり頼るのでなく自分達にできる町づくりの参加、参画（協働）の取り組みがあります。

コミュニティ活動が私の地域で大変活発に行われており、今回この機会に県内各地の多くの先輩皆様方との出逢い、ご指導を仰ぎ自己研鑽に努め、地域づくり、町づくりに取り組んでまいりたいと考えております。



私の農業経営

昭和五十四年度卒

保 坂 秀 樹

私は、昭和五十四年度に本校園芸科を卒業し、その後、農業協同組合、現在のJAに就職し、平成元年に就農いたしました。当時、父と母が米十いちの栽培をしていましたので、何の抵抗もなく農業に従事することになりました。

その頃より、米の値段が安くなり始めてきたの



校 歌

昭和三十六年度卒

柴 山 時 男

いやあのぼる 日の本の……、八幡が丘の 学舎に……、正しき道のしるべなれ。当時の校歌の一節である。本校は今年度創立百周年を迎えられました。我々はこの記念すべき年に偶然にも同級会を開くことになったのである。十一月、鬼怒川の温泉宿に恩師を招き集めた。全員起立の



芸（いちご）五十五アールであり、内五十二アールが単棟ハウス土耕、三アールが単棟ハウス高設栽培で、六割を早出し栽培にし、十月下旬からの収穫、残り四割を十一月中旬からの収穫とし、五月中旬で収穫作業を終了します。

「とちおとめ」という品種の特性を十分に考慮し、夜冷庫はもちろん、電照、炭酸ガスなどを実施し、温度管理を自動にし元肥を有機肥料としております。

労働力は、私と父、母そして、研修制度を利用して、中国女性二名を雇っています。最初、ほとん



私の近況報告と経営

昭和四十一年度卒

小 川 三 代 治

私は昭和四十一年に農業科を卒業と同時に就農しました。当時は米の一割増産が政府の方針で開田ブームの最中でした。一方で農業の曲り角とか、さんちゃん農業とか、はやり言葉になっていました。米の価格も年々上昇していった。そんな中、卒業生のほとんどが就農し、青年団活動や四日活動が盛んな時でした。

在校中、担任の高島博先生の御指導の授業で苗栽培をしていたので、卒業と同時に苗栽培を始めました。当時はダンナーでコモを編み、コモをかけて保温をしたので雨のときや強風の時は大変な思いをしました。そんな時、高島先生が指導してくれました。真面目な仕事と

量部門で全国大会に出場したことを思い起して、任意に設置したW形の測点をトランシットで測角し、点間の距離を測り、これを七桁対数表を用いて各点の座標を求め製図をするのである。最後にWの両端間の距離が、この測量に基づく計算上の距離と一致するかどうか一定の時間内でその精度を競うものであった。現在、二宮町で立派に農業経営をしている柴山清さんと、東鉄工業に就職された星野浜三郎さん、私の三人で見目先生のご指導のもと八幡ヶ丘の校庭で汗を

なっていると思います。栽培の進歩の勉強と経営の会計士になったり機械の整備士になったり土木の仕事など何でもやらなければならぬ様になっていきます。

現在我が家の経営は、耕作面積二百七十アールと母十八アールを妻と二人で経営しています。子供達が他産業に就職しているの、二人で楽しみながら堅実な経営をしてゆき品質の良い農産物を生産して行きたいと思っています。五十五歳より夫婦で一週間程度の旅行でリラックスするよう心掛けています。

青年部長として

平成十三年度卒 猪野 雄 介

平成十六年度四月より同窓会青年部部長に就任しまして、今年度で四年目になりました。

本年度活動におきましては、同窓会役員の先輩方、事務局の先生方、また同窓生の皆様方には、日頃より、温かいご指導ご支援を頂きまして、厚く御礼申し上げます。

今年度の青年部活動は前年度同様、役員会を中心に役員間の交流を深めつつ、学校行事への参加を行いました。学校祭での模擬店出店では青年部特製の「焼きそば」を焼き、百食以上を完売させる事ができました。

青年部活動

昭和十三年度卒 君嶋 夏 樹

青年部の役員をさせていただいて、今年で四年目になりました。主な活動内容としては、学校祭への参加や研修会などがあります。学校祭では、毎年焼きそばを焼き、北陵祭を盛り上げています。今年度は、一〇〇周年という、とても大きな行事があったために、まだ研修会は行っていません。

学校祭では、焼きそばを焼き、青年部の友人や先輩、さらには先生方や生徒たちとの交流ができるので、活動に楽しく参加しています。今年度は五

百食を完売する事ができた。

今年から始まった、北陵朝市への参加。青年部の会員が作った農産物の直売。今後も続けていきたいと思うので、農産物の種類を増やす事が今後の課題かと思っています。

ここで平成十九年度、一緒に会務をして頂いた役員の皆さんを紹介させていただきます。

部長 猪野雄介 平成十三年卒

副部長 大根田勝 平成十三年卒

君嶋夏樹 平成十三年卒

石川達大 平成十三年卒

- 横山敦史 平成十四卒
- 常任委員 古川善治 平成十三年卒
- 小島勇樹 平成十四卒
- 芦野雄介 平成十四卒
- 関口裕友 平成十五卒
- 阿久津徹 平成十五卒
- 金鋪良昭 平成十六卒
- 矢野貴彰 平成十六卒
- 廣田真人 平成十七卒
- 國母智範 平成十七卒

生徒会長として

三年二組 高久 諒 太

私が生徒会長となり、早一年の任期を終えました。高校の三年間はとても早く、充実した生徒会活動も私にとって大切な思い出として、今も鮮明に残っています。

右も左も分からずに、不安片手に会長となり、初めての行事は予餞会で

今年度の進路状況について

進路指導部長 石塚 良 典

就職においては、景気回復に加え、団塊の世代の大量退職を見込んだ大幅な求人増により、鉄鋼・金属関連、自動車製造関連を中心として昨年以上に積極的な採用が行われました。今年の特徴として、男子は、運動部に所属している人は大変有利な反面、部活動など何もうっていかない人にとって

家でもイチゴと椎茸を栽培していますが、自分が作った物を買ってもらおうという、嬉しいというかなんとも言葉では言い表す事の出来ない気分を、生徒たちが少しでもわかってくれる事をとても嬉しく思います。青年部としても全面協力したいと部長を筆頭に役員たちと話しています。

これから私たち役員は、役員を次の代の人たちに受け継いでいくわけですが、青年部活動におきま

した。まだまだ未熟な私を、多くの先生方にお力を添えていただき、生徒会役員一同、一致団結し、速やかな進路がでるよう心がけました。そのため予餞会は大成功のうち

に幕を閉じることができました。そしてさらに、五月には、益子養護学校

との交流会、レクリエーションを含め、真岡北陵の大地と一緒に感じ、共に力作りを行い、トマト狩りでは自然に触れることができました。とても楽しく食事ができたこと、何より最後まで笑顔で交流ができ、喜んでもらったと実感できました。

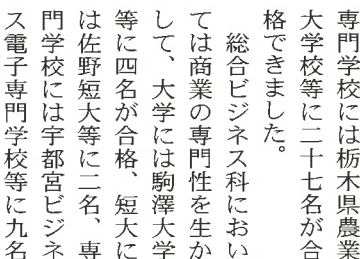
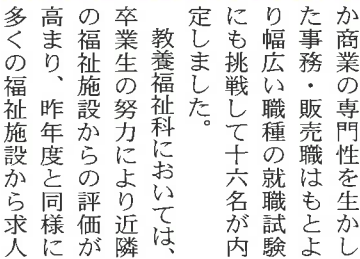
六月には、体育祭が行われました。各クラス優勝に向け、練習に励んで

をいただき、十六名が内定しました。

一方、進学においては、少子化による大学・短大全入時代の元年の年となり、大学や短大においては学校間の難易度の差がより明確となり、校種間や地域間における二極分化が一層進む結果となりました。さらに、今年度から本県を除く専門学校がAO入試を導入するなど、大学、短大、専門学校間においては生徒獲得競争が激化する傾向が始まりました。

各学科の状況は、農業三学科においては、農業の専門性を生かした職種を中心に幅広い職種に七十九名が内定しました。総合ビジネス科においては、求人数が少ないうえに、商業の専門性を生かした事務・販売職はもとより幅広い職種の就職試験にも挑戦して十六名が内定しました。

教養福祉科においては、卒業生の努力により近隣の福祉施設からの評価が高まり、昨年度と同様に多くの福祉施設から求人



平成19年度進路状況							
平成20年 1 月 17 日現在							
進学	大 学		短 大	専 門 学 校 等			
	国公立 4 大	私 立 4 大	私 立 短 大	別 科 専 門	専門学校 専修学校	能力開発 訓練 校	予 備 校 無認可校
男子	1 (0)	4 (4)	0 (2)	0 (0)	8 (23)	5 (11)	0 (2)
女子	0 (1)	5 (3)	10 (13)	0 (0)	30 (25)	1 (6)	0 (1)
小計	1 (1)	9 (7)	10 (15)	0 (0)	38 (48)	6 (17)	0 (3)
合計	10 (8)		10 (15)	44 (68)			
就職	就 職					卒業生の在職・ 無業者数	合 計
	管 内	県 内	県 外	公務員	自 営	現3年の進路先 未定者数	
男子	32 (22)	16 (16)	1 (1)	3 (1)	0 (1)	3 2	72 (86)
女子	25 (19)	37 (25)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	13 12	120 (108)
小計	57 (41)	53 (41)	1 (3)	3 (1)	0 (1)	14 (16)	192 (194)
合計	114 (87)					14 (16)	192 (194)

※ () 内の数値は昨年度の最終人数

は、やや不利な状況が見られました。また、女子にとっては昨年と同様の厳しさが続きました。さらに、今年度は公務員採用試験にも四名の人が受験し、自衛隊陸・海・空二士試験に三名、自衛隊曹候補士試験に二名、栃木県警察官試験に二名が合格することができました。

各学科の状況は、農業三学科においては、農業の専門性を生かした職種を中心に幅広い職種に七十九名が内定しました。総合ビジネス科においては、求人数が少ないうえに、商業の専門性を生かした事務・販売職はもとより幅広い職種の就職試験にも挑戦して十六名が内定しました。

教養福祉科においては、卒業生の努力により近隣の福祉施設からの評価が高まり、昨年度と同様に多くの福祉施設から求人

との交流会、レクリエーションを含め、真岡北陵の大地と一緒に感じ、共に力作りを行い、トマト狩りでは自然に触れることができました。とても楽しく食事ができたこと、何より最後まで笑顔で交流ができ、喜んでもらったと実感できました。

六月には、体育祭が行われました。各クラス優勝に向け、練習に励んで

をいただき、十六名が内定しました。

一方、進学においては、少子化による大学・短大全入時代の元年の年となり、大学や短大においては学校間の難易度の差がより明確となり、校種間や地域間における二極分化が一層進む結果となりました。さらに、今年度から本県を除く専門学校がAO入試を導入するなど、大学、短大、専門学校間においては生徒獲得競争が激化する傾向が始まりました。

各学科の状況は、農業三学科においては、農業の専門性を生かした職種を中心に幅広い職種に七十九名が内定しました。総合ビジネス科においては、求人数が少ないうえに、商業の専門性を生かした事務・販売職はもとより幅広い職種の就職試験にも挑戦して十六名が内定しました。

教養福祉科においては、卒業生の努力により近隣の福祉施設からの評価が高まり、昨年度と同様に多くの福祉施設から求人

との交流会、レクリエーションを含め、真岡北陵の大地と一緒に感じ、共に力作りを行い、トマト狩りでは自然に触れることができました。とても楽しく食事ができたこと、何より最後まで笑顔で交流ができ、喜んでもらったと実感できました。

六月には、体育祭が行われました。各クラス優勝に向け、練習に励んで

をいただき、十六名が内定しました。

は、大学には日本社会事業大学等に二名が合格、短大には佐野短大等に七名が合格、専門学校には

が合格できました。

教養福祉学科においては、卒業生の在職・無業者数、現3年の進路先未定者数

最後に、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

は、大学には日本社会事業大学等に二名が合格、短大には佐野短大等に七名が合格、専門学校には

が合格できました。

教養福祉学科においては、卒業生の在職・無業者数、現3年の進路先未定者数

最後に、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

は、大学には日本社会事業大学等に二名が合格、短大には佐野短大等に七名が合格、専門学校には

が合格できました。

教養福祉学科においては、卒業生の在職・無業者数、現3年の進路先未定者数

最後に、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

は、大学には日本社会事業大学等に二名が合格、短大には佐野短大等に七名が合格、専門学校には

が合格できました。

教養福祉学科においては、卒業生の在職・無業者数、現3年の進路先未定者数

最後に、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

面には、本年度も就職や進学において生徒の進路が確保されたのも、伝統ある本校卒業生の多

生物生産科

塚田 正義

生物生産科の生徒は、植物や家畜といった生き物を授業の対象として、やる事もあり、相手を思いやる気持ちや、生き物に



の授業の他に、農場での実習も多く体験していることもあり、体を動かすことを得意とし、勤労意欲も豊富である。

農業機械科

山本 茂樹

現代社会の基幹産業は何かというと、見方によ

っていろいろあるが、自動車に代表される動力機械がその一つの代表であることに異論は無いと思

う。その機械という名称を冠した農業機械科について農業に対する機械と

食品科学科紹介

今泉 光由

食品科学科は、「食品の加工・貯蔵・品質管理及び食品衛生に関する知識と技術を習得させ、こ

らの業務に従事する者として必要な能力と態度を育てる」ことを学科の目標としています。つま

り、食品について基本的なことを専門的に学び、将来食品産業で活躍できる生徒を育てる学科です。

主な専門科目は、製造原理を学ぶ食品製造、次に、食品には様々な成分が含まれていますが、その性質や働き、分析法について学ぶ食品化学、さ

らに微生物の種類や働き、培養法について学ぶ微生物基礎などがあります。どの科目も私達の生活に密接な関係があり、実用的で非常に役に立つものです。これらの科目は、

地域福祉推進の人材育成を目指して

教育福祉科 猪瀬 由美子

の理解や自分の専門性を高めることに役立っています。

また、将来役に立つような数々の資格取得にも挑戦できます。今年度から新たに新生活アドバイザも取得可能になりました。



このように食に関する基礎・基本的な知識を身につけ、将来は食品製造企業や外食産業などへ就職する者、さらに高度な知識・技術を学ぶために、専門学校・短大・大学への進学を目指す者にと進路も分かれます。

資格としては危険物試験・ガス・アーク溶接資格・車両系建設機械・フォークリフト運転・小型移動式クレーン・玉掛け資格などである。本校で過ごす三年間は短い時間ではあるが、勉強・部活・その他の諸活動と場面、場面に応じて生徒諸君は積極的に自分を生かし研鑽してほしい。

吹奏楽部

二年五組 中三川 未来

私たち吹奏楽部は二年生十名、一年生十一名の計二十一名で日々楽しく練習に励んでいます。顧問の坂本先生、恋渕先生は優しく、でも時には厳しく指導して下さいます。主な練習内容は、基礎合奏に始まり、個人・パート練習セクション練習、全体合奏という流れで行われています。パート練習やセクション練習では、パートリーダー、セクションリーダーが中心となっており、お互いに音楽の質が向上するように注意し合っています。合奏では曲を合わせるのも、もちろんですが、一つ一つの音色やハーモニーを確認して行きます。コンクールのときに必要な力を身に付けるためです。

今年度の吹奏楽部は、真岡北陵高校の記念すべき百周年目にあつたので、活動としてはとても忙しいものとなりました。まず、春の新入生歓迎演奏に始まり、音楽祭、夏のコンクール、秋に行われた百周年記念式典での演奏、学校祭での発表など、演奏する機会がとて



総合ビジネス科では、ビジネスに関する各分野についての基礎的・基本的な知識と技術を習得し、ビジネスに関わる業務に適切に対応するための能力と態度を育てることを目的としています。

そして、簿記会計分野の学習を中心に、最新の情報機器を使って経営情報分野、流通ビジネス分野、国際経済分野をバランスよく学習し、資格の取得にも力を入れています。

総合ビジネス科

町田 則人



卒業後は、経済・経営・商学部などの大学・短大や、会計や情報処理等の専門学校進学を目指す人や、販売・事務・サービス業へ就きたい人に適しています。

優良農家表彰

(敬称略)

No	支部	推薦者	氏 名	住 所	作 物
1	真岡	真岡支部長 縮 野 義 明	小川三代治 (昭和41年度卒)	真岡市高間木 1-32-1	水稲・イチゴ
2	山前	山前支部長 仁 平 正 一	小川 幹夫 (平成6年度卒)	真岡市西田井 1-105	トマト・水稲
3	山前	山前支部長 仁 平 正 一	中里 一広 (平成7年度卒)	真岡市西田井 115	トマト・水稲
4	物部	物部支部長 星 野 義 治	保坂 秀樹 (昭和54年度卒)	二宮町物井 1230-6	イチゴ・水稲
5	七井	七井支部長 佐 藤 忠 雄	高田 信夫 (昭和54年度卒)	益子町大沢 172	水稲・ブドウ

頑張ってます。北陵生

平成 19 年 12 月現在

<ライフル射撃部>

(BRはビーム・ライフル ARはエア・ライフルの略)

○関東高校ライフル射撃競技選手権大会

BR 女子団体優勝 小筆 美沙・川崎 寛子・佐藤 泉美組
BR 男子団体準優勝 青山 岳史・塩野谷則哲・大畑 翔平組
AR 女子団体準優勝 駒田 美香・菊地奈緒美・鈴木侑香里組

BR 男子個人4位 塩野谷則哲

BR 男子個人5位 青山 岳史

BR 女子個人優勝 小筆 美沙

これにより県から知事賞受賞

BR 女子個人4位 川崎 寛子

BR 女子個人5位 佐藤 泉美

AR 女子個人2位 駒田 美香

AR 女子個人3位 鈴木侑香里

AR 女子個人7位 菊地奈緒美

○東日本ライフル射撃選手権大会

AR 女子個人準優勝 鈴木侑香里

AR 女子個人5位 駒田 美香

AR 女子個人6位 菊地奈緒美

○全国高校ライフル射撃競技選手権大会

AR 男子個人優勝 柳 淳貴

これにより県から県高校スポーツ優秀選手賞受賞

AR 男子団体4位 柳 淳貴 菊地 利幸 増淵 能久組

AR 女子団体6位 駒田 美香・菊地奈緒美・鈴木侑香里組

BR 女子団体8位 小筆 美沙・川崎 寛子・佐藤 泉美組

BR 男子団体優勝 青山 岳史・塩野谷則哲・大畑 翔平組

これにより県より県高校スポーツ賞受賞

BR 男子個人準優勝 塩野谷則哲

○日韓高校生ライフル射撃大会

AR 女子個人4位 駒田 美香

○JOCジュニアオリンピックカップライフル射撃選手権大会

AR 女子個人6位 鈴木侑香里

BR 男子個人5位 大畑 翔平

○国民体育大会ライフル射撃競技大会

AR 少年女子40発4位 鈴木侑香里

AR 少年女子20発6位 鈴木侑香里

BR 少年女子20発6位 小筆 美沙

女子総合成績 8位 栃木県

BR 出場 塩野谷則哲

○関東高校ライフル射撃競技選抜大会

AR 女子個人6位 松村亜里沙

AR 男子個人6位 大畑 翔平

AR 男子個人8位 川田 昌平

BR 男子個人6位 藤平 卓也

BR 男子個人8位 塩野谷則哲

○優秀選手受賞 柳 淳貴 増淵 能久 菊地 利幸 青山 岳史

塩野谷則哲 大畑 翔平 菊地奈緒美 鈴木侑香里

駒田 美香 小筆 美沙 澤居 恵利 川崎 寛子

佐藤 泉美

○県高校スポーツ優秀監督賞受賞 ライフル射撃部監督 菅谷浩吉

<山岳部>

○関東ブロック大会山岳競技 少年男子1位 栃木県

○国民体育大会山岳競技 縦走 少年男子個人7位 手塚 大亮

クライミング 少年男子1位 栃木県

<陸上部>

○栃木県高等学校陸上競技新人大会 男子800m 2位 仁平 裕也

○関東高等学校陸上競技大会 男子800m 出場 仁平 裕也

<サッカー部>

○全国高校サッカー選手権大会栃木大会 2次予選 出場

<バレーボール部>

○中部地区夏季バレーボール大会 3位

<吹奏楽部>

○栃木県吹奏楽コンクール 銅賞

○栃木県農業大学校祭 友情出演

○栃木県吹奏楽アンサンブルコンテスト

銀賞 目野 愛莉 田口 友希

野澤 里花 小林 花衣

<農業クラブ>

○栃木県学校農業クラブ連盟大会

意見発表「食料」最優秀賞 稲川明日香

意見発表「文化・生活」最優秀賞 長谷川琴美

意見発表「環境」優秀賞 武田 由香

農業情報処理競技会 優秀賞 木村 優美 高野 佳織

○関東地区大会学校農業クラブ連盟大会

意見発表「食料」優秀賞 稲川明日香

意見発表「文化・生活」優秀賞 長谷川琴美

<交通安全標語>

○芳賀真岡地区高等学校交通問題地区連絡協議会 最優秀賞 新倉 咲

家庭クラブ活動報告

顧問 菊地 美智子

家庭クラブ活動は、私たちが、自分自身の問題に気づき、自主的に取り組んで一人ひとり、または、グループでの実践的な問題解決型学習です。奉仕活動・交流活動・校内美化活動等、役員を中心として計画立案し、会員全員が活発に活動しています。活動内容は、身近な問題に気づくことから始まります。環境について学んだら分別ごみ処理やごみを出さない生活について考え、食物を学んだら郷土料理の調理の方法や季節の料理を考え、など家庭クラブ活動を通して家庭での食に対する心を育てるなど、様々な領域を体験することが出来ます。例えば、校内にアルミ缶回収ボックス

今年度実施した内容、これから実施する行事は次のとおりです。

五月 家ク紹介・総会

家ク週間

花いっぱい運動

調理講習会

調理講習会

八月 県連家ク総会

県連リーダー養成

成講習会(とちぎ青少年センタ

ー)

十月 家庭クラブ立会

演説会・役員選

挙

家庭クラブ会長としての感想

三年五組 岩下 恵梨

私が家庭クラブ会長として活動して、はや三年が経ちました。校内家庭クラブ活動では、校内美化活動である花壇整備やアルミ缶回収、ハンドソープの設置、交流活動の

一環である調理講習会。また学校祭でのユニセフ募金とさまざまな活動をしてきました。

この活動の一つ一つは、役員と協力し合い、計画立案から、一生懸命に活動しました。今年度は特に校内美化活動に力を入

最後に、このように活動が活発に実施できるのは、本校の歴史・伝統と関係諸先生方をはじめ学校地域の皆様方の御協力・支えがあったからこそと深く感謝申し上げます。

農業クラブ活動報告

顧問 田村 勇治

校内意見発表会では、各クラスから選ばれた生徒十名が出場し、普段考えている自分の意見を七分の持ち時間で充分に発表しました。どの生徒も大変すばらしく、しっかりとした発表内容でした。その結果、最優秀賞に長谷川琴美さん、優秀賞に稲川明日香さん、武田由香さん、石野由佳さんが選ばれました。

校内農業鑑定競技会では、各学科にわかれてコースが設定され、普段学んでいる専門知識について、四〇問の問題に挑戦しました。農業コースでは、実験器具や植物の病気、それに種子や植物体に関する問題が出題されました。農業機械コースでは、機械の部品や工具

果を十分に発揮し、意見発表食料の部で稲川明日香さん、文化生活の部で長谷川琴美さんが最優秀に選ばれました。また、環境の部では武田由香さんが優秀賞に選ばれました。

栃木県畜産試験場で行われた家畜審査競技会では、六名の生徒が出場し、優秀賞に澤居恵利さん、駒田美香さん、野沢樹君が選ばれました。

本校において行われた情報処理競技大会では、高野佳織さん、木村優美さん、小島美保さんが出場しました。二名が優秀賞になりましたが、関東大会へは進めませんでした。



静岡県静岡市で行われた第五八回関東地区学校農業クラブ連盟大会では、県大会で最優秀賞に選ばれた意見発表区分食料の稲川さんと区分文化生

の長谷川さんが出場し優秀賞を受賞しました。広島県で行われた第五十八回日本学校農業クラブ全国大会は、約六千名の参加者により盛大に開催されました。今年度は農業鑑定競技会、クラブ員代表者会議にそれぞれ参加してきました。農業鑑定競技会に出場する生徒は、夏休みもほとんど学校に来て学習に取り組みしていました。しかし、今年度は入賞することが出来ませんでした。



編集後記

今年には北陵高校百周年記念事業の記事と写真を中心に編集しました。百周年の盛會を祝し今後の発展を祈念致します。

編集委員

井澤 誠 館 芳衛
広田茂十郎 猪野 正子
猪野 雄介 石川 達大
大根田 勝 君嶋 夏樹
山口 秀明

100周年記念 育英会設立

本校同窓会では、一〇〇周年記念事業の一環として、育英基金を設けた。人物、学業とも優秀の上、大学等に進学した者に対して給付し、社会有用の人材を育成することを目的としている。

本年度百周年記念奨学生
生物生産科 澤居 恵利
農業機械科 稲川 光一
食品科学科 小池 寿奈
総合ビジネス科 海賀真由美
教養福祉科 町田 優

